

第3学年 英語科学習指導案

平成28年11月11日(金)

1. 単元名 TOTAL ENGLISH 3 Chapter 3 Project 大切な人について書いてみよう

2. 題材設定の理由

(1) 題材観

本課は、尊敬する人についてスピーチ作りを行う活動である。今までに Show and Tell 形式の活動はたくさん行ってきた。また、独自に 3 Sentence Talk という、即興性を求める自由度の高い活動、そして 3 Sentence Writing という、3 Sentence Talk で話したことを書いてまとめる活動を行ってきた。言い換えると、「言いたいことをどんどん言う」という活動を中心に行ってきた。一方で、しっかりと下調べをして原稿を書くという活動は、先の活動に比べると多くない。この題材を通して、準備を大切にした「本格的なスピーチ」を行う良い機会としたい。

教科書で取り上げているスピーチの例は、「星野富弘の半生」についてである。体育教師の星野富弘が不幸にも事故により麻痺になりながら、それでも人生をあきらめることなく画家として今現在も活躍していることが書かれている。

スピーチの中では短い文を重ねて表現することよりも、関係代名詞を用いて情報を細かく説明することがある。しかし関係代名詞を用いた文は長く複雑になりやすい。Lesson 5 と Lesson 6 で関係代名詞について学習を行ってきた。関係代名詞を含む文の意味を理解することは、普段の授業で扱っているワークシートや授業の様子を通して見ると、そこまで困難ではない。一方で、教科書以外で関係代名詞を使った文を適切に考えて作ることは決して多くの場面を設定できなかった。そのために、生徒が関係代名詞を使った文を作るタイミングや作り方に困難を感じる事が予想される。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく積極的に授業に取り組む姿が見られる。また全体活動の中での挙手や会話活動の発表も進んで行う生徒が多い。学習がやや遅れている生徒も数名いるが、一生懸命授業に取り組み、理解しようと努力している姿が見受けられる。スローラーナーを中心に生徒たちへの個別支援の機会を作り、授業を行っていく。

(省略)

英語の学力調査の結果から特に、「読むこと」及び「書くこと」を改善するために、「内容の要点を掴む力」「要点を整理する力」そして「表現する力」が必要だと考え、それらを向上させていくよう工夫改善していく必要があると考えられる。

(3) 指導観

文部科学省は 2013 年に 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、中学の英語の授業を原則として英語で行うことなどを盛り込んだ「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。中学校英語では以下のことが示されている。

【中学校】

- 授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視
- 目標：身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う
例) 短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができる。

以上より、まずは基礎・基本的な知識を身につけさせ、繰り返し学習をすることで、学習内容の定着を図りたい。そして、身につけた学習事項を活用させるための言語活動を実践させることで、本校の課題解決、さらに「英語教育改革実施計画」の目標達成に迫りたい。

そこで、生徒が基礎・基本的な知識を身につけ、それを表現できる力を養うためには、言語材料と言語活動をバランスよく授業の中に取り入れていくことが必要だと思われる。さらには、言語活動の中でも比較的「自由度」の高い活動を取り入れていくことで、自由に自分の意見や気持ちを伝える活動の場が設定され、新出の言語材料に限らず、既習事項を様々な活用することができるであろう。それが繰り返し学習となり、既習事項のより一層の定着につながると考えられる。この「自由度」の高い活動を、意図的、継続的に取り入れ、指導するようにしている。

またその自由度の高い活動においては、生徒にできるだけ多くの英語を身につけさせなければならない。そこで「読む」活動や「聞く」活動から、「話す」活動そして「書く」活動へつなげるようにし、実際のコミュニケーションに近い形をとりながら、コミュニケーション能力の向上を目指している。具体的には、読む活動では内容理解に留まらず、会話では登場人物になって会話を広げてみたり、説明文では、最後に感想などを一言付け加えてみたりする活動を取り入れている。これらの活動の基盤には、基礎・基本的な学習の定着が欠かせないので、土日学習という形で単語練習のプリントを配布し、家庭学習へとつなげるようにしている。

さらには、「自由度の高い活動」と合わせて、要点を整理したものを使って口頭で表現したり、書いて表現したりすることも大切である。そこで、普段の授業から話したことを整理しながら書いてまとめる活動も取り入れている。これらの活動を通じて、適切に表現する力と正確に表現する力を身につけていけるように指導している。

本時の授業では、尊敬する人についてのスピーチを Dictogloss の手法を用いて導入する。この手法では、メモを取りながらまとめた英文を聞き、そのメモをもとに聞き取った内容を個人、ペア、グループを通して再構築していくという活動である。Dictation に似ている活動であるが、決してそのままを再現する必要はなく、キーワードを集めて、足りないところを自らの表現を使って再構築することが重要である。その再構築の段階で、既習事項を使い、言い換えることを通じて表現力の向上を目指す。そして、最終的に自分の尊敬する人について調べ、意見や気持ちを含めて、書く、発表する活動へと結び付けていく。

3. 研究主題との関わり

研究主題 「生徒と教師が楽しみながら成長する、人を活かし伸ばす研修」

〈主題に迫るための方策〉

〔視点1〕 『生徒と教師が楽しみながら成長する』の視点から

- ・生徒とのインタラクションの工夫
- ・安心して、かつ集中して授業に取り組むことが出来る環境づくり
(授業規律の確立)

〔視点2〕 『人を活かし伸ばす』から

- ・〈知識〉の活用場の工夫（定期的な本文再生の実施）
- ・ピアラーニングの活用
（ペアワーク・インタビュー活動・発表の場など、お互いに気づき合い、学び合う場の設定）
- ・音読形態の工夫
（段階的な音読活動を通じ、自己表現につなげる場を設定）
- ・意図的なアウトプット活動の実施
 - ① まとまりのある文（3文以上）で自己表現活動を行う。
 - ② 説明文では感想を言い合うなど、会話文では登場人物になったつもりで、相手の人と会話を続けるなどの活動を行う。

4. 単元目標

- (1) 聞き手を意識した発表やスピーチ作りをしようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 尊敬する人についてまとまりのある文章を書くこと、話すことができる。【外国語表現の能力】
- (3) 尊敬する人の例題を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。【外国語理解の能力】

5. 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心意欲態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<p>◆言語活動への取組</p> <p>○聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。</p> <p>◆コミュニケーションの継続</p> <p>○相手の話に相槌を打ち、話を聞く。</p>	<p>◆正確な筆記</p> <p>○語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。</p> <p>◆正確な発話</p> <p>○正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。</p> <p>◆適切な筆記</p> <p>○尊敬する人について、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>◆適切な発話</p> <p>○適切な声量や明瞭さで話すことができる。</p>	<p>◆適切な聞き取り</p> <p>○尊敬する人の例題を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。</p>	

6. 指導の評価と計画（4時間扱い 第1時）

〔○：形成的評価 ◎：総括的評価〕

時	◆ねらい ○学習活動	評価の観点			
		(関)	(表)	(理)	(知)
1	◆尊敬する人についてのスピーチの例題を聞いて、内容の概要（要点）を理解し、内容を再構築する。 ○Dictogloss の手法を用いて、例題を聞いて内容を再構築する。		◎	◎	
2	◆尊敬する人について、「導入」「内容」「まとめ」を整理して書く。 ○尊敬する人について、「導入」「内容」「まとめ」の柱立てに従って、まとまりのある英文を書く。	○	◎		
3	◆尊敬する人についてのスピーチを覚え、読む段階から話す段階へつなげる。 ○様々な音読の方法を使って、スピーチを読み込み、相手が聞きやすくなるように意識して活動する。		○		
4	◆尊敬する人についてのスピーチを行う。 ○話す速さ、抑揚、音量などに留意して、相手が聞き取りやすいようにスピーチする。	○	◎		

7. 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ・尊敬する人の例題を聞いて、概要や要点を伝えられるように書き起こすことができる。
【外国語表現の能力 (W)】
- ・尊敬する人の例題を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。
【外国語理解の能力 (L)】

(2) 本時の評価規準

ア コミュニケーションへの関心意欲態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
本時は評価しない。	尊敬する人の例題を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に再構築することができる。	尊敬する人の例題を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	本時は評価しない。

	<p>6 英文の聞き取りと復元(18分)</p> <p>(1) 英文聞き取り</p> <p>(2) 英文聞き取り</p> <p>(3) 個人で復元</p> <p>(4) ペアで復元</p> <p>(5) グループで復元</p> <p>(6) 個人で整理</p> <p>7 再考(7分)</p> <p>(1) 復元内容の発表</p> <p>(2) 復元内容の再考</p>	<p>1 回目は英文を聞く。</p> <p>2 回目はメモをとりながら聞く 個人で英文を復元する。</p> <p>ペアで英文を読み合い、よりよい英文になるように修正する。</p> <p>グループで英文を読み合い、よりよい英文になるように修正する。</p> <p>個人に戻って、共有したものを を使い英文を整理する。</p> <p>数人の生徒が復元した英文を を発表する。</p> <p>発表・評価で共有したことを 生かして、復元を行う。</p>	<p>■【視点1】英文再生 英文を再生する過程で、理解や知識、表現力の向上を目指す。</p> <p>◎1 回目は集中して聞かせるようにする。</p> <p>◎2 回目はポーズを少し入れて、メモをとれるようにする。</p> <p>◎復元では机間指導を行い、スローラーナーが少しでも書けるようにする。</p> <p>◎ペアやグループで行う際は、書いたものを見せ合うのではなく、書いたものを読み上げるようにするが、同じものにする必要はない。</p> <p>◎必要に応じて、再度英文を聞かせる。</p> <p>★尊敬する人の例題を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。 【外国語理解の能力(L)】 (ワークシート・ペア、グループ活動観察)</p> <p>★尊敬する人の例題を聞いて、概要や要点を伝えられるように書き起こすことができる。 【外国語表現の能力(W)】 (ワークシート)</p> <p>◎発表を聞いて、必要な情報を書き取らせる。</p> <p>◎必要な情報をもとに、よりよい英文を作らせる。</p>
<p>終末 (3')</p>	<p>8 まとめ(2分)</p> <p>9 あいさつ(1分)</p>	<p>本時の内容を口頭で振り返る。 今後の取組についての連絡を聞いて、確認する。</p> <p>あいさつ</p>	<p>◎学習内容の定着を図る</p> <p>◎次回の授業への意欲を高める。</p> <p>◎元気よく行う。</p>